

施策番号	施 策 名	高齢者福祉の充実	基本目標	誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり			
			政策名	住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の充実			
3-3-2	主 管 課	高齢者支援課	課長名	久保禎巳	内 線	154	
	施策関係課	健康福祉課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果	
高齢者の方々の健康づくりや社会参加を推進し、住み慣れた地域で自分らしく安心して生活できるような適切なサービスを提供します。		高齢者（65歳以上）		・社会参加（介護予防）と心身の健康の維持を推進する ・介護が必要になっても住み続けられる環境づくりを推進する ・重度化防止、自立支援に向けた介護基盤の整備を推進する				高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる	
成果指標		説明	単位	策定時〔基準値〕	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標
①	高齢者にとって暮らしやすいまちだと思う高齢者の割合	住民意識調査	%	66.6 (R3)	65.9	75.0			72.0
②	やりがいのある趣味や運動、仕事に取り組んでいる高齢者の割合	住民意識調査	%	68.9 (R3)	70.6	68.7			75.0
③	芽室町の福祉サービスに満足している高齢者の割合	住民意識調査	%	71.4 (R3)	78.8	87.5			77.2
④									
成果指標設定の考え方		① 町民が感じている高齢者の暮らしやすさは、本施策の指標となることから設定。 ② 活動的な高齢者の割合が増えることが介護予防につながるから設定。 ③ 町内で提供される福祉サービスに対する高齢者の満足度を捕捉する必要があり設定。 各成果指標とも策定時の数値を上回ることを目指し目標値を設定。							

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	1,609,515	1,701,095	1,745,647		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察							
①2024年度の 成果評価 (前年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した	想定され る理由	②は前年より微減している一方、①③ともに大きく伸びており、介護・医療施設によるサービス提供のほか、介護予防事業や高齢者福祉サービスの充実について、広く認識されたことで向上したと捉えている。				
	<input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった						
	<input type="checkbox"/> 成果は低下した						
②第5期総合計 画後期実施計画 (2026年度)の最 終的な目標達成 状況	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる	根拠 (理由)	①は、19歳以下と70代以上の方の満足度は高いものの40～60代が低い傾向にあることから、将来に対する不安が影響しているものと捉えている。介護保険制度や介護予防の理解を求める活動や、介護サービス体制の維持を図ることにより、成果指標の維持を図ることが出来る。 ②は、介護予防体制の充実、高齢者団体への活動支援等、各事業の充実のほか、無関心層へのアプローチを検討し向上に取り組む。 ③は、安定した介護基盤を支える介護保険制度、在宅介護を支える施策、介護予防の取り組みが評価されたと考えている。				
	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能						
	<input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい						
(2) 施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括							
①施策の成果向 上に対して貢献 度が高かった事 務事業	支え合いの町づくり人材育成事業	②施策の成果向 上に対して貢献 度が低かった事 務事業					
	地域包括ケアシステム推進事業						
	介護予防教室開催事業						
③事務事業全体 の振り返り(総括)		・「支え合いの町づくり人材育成事業」～介護サービス安定化のための人材育成のほか、学生に介護現場を経験できる機会の提供等、事業の充実を図った。 ・「地域包括ケアシステム推進事業」～全世代型地域包括ケアシステムを目指す町の考え方を広め、高齢者のみならず複合・複雑化した課題へ対応するための取り組みを進めた。 ・「介護予防教室開催事業」～気軽に通える介護予防教室を導入したことにより、住民主体の通いの場から送迎付きの介護予防教室まで、高齢者の心身の状況が変化しても途切れることなく支援する体制を整えた。					
(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)							
担当課 評価	介護人材を確保する体制づくりが進み、相談体制の強化により高齢者の状況に応じた適切な介護サービス等の提供が図られた。また、介護予防事業の拡充や介護予防の重要性を啓蒙する活動を通じ、高齢者の健康づくりや社会参加が進んだと考える。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した
D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	《施策を取り巻く状況》 ・高齢者人口の増加、人口減少、世帯構造や家族の関係性の变化 ・介護基盤を担う人材確保の深刻化 ・感染症対策の長期化による施設の負担、家族の面会制限への不満 《今後の予測》 ・高齢者人口増加に伴い介護サービス需要の増加（在宅サービス、移動手段） ・人口減少や世帯構造の変化に伴う複雑化する問題の増加（成年後見制度利用の増加） ・現役世代減少に伴う、安定した介護保険制度の継続（介護保険料、適正給付、健康寿命の延伸）や、人的基盤確保への一層の対応
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	経営戦略会議から：健康な高齢者の就労や社会参加を含めた自立と健康維持増進の取り組みが必要との意見がある。 審議会から：介護予防の取り組みや高齢者の社会参加の機会充実について意見がある。→身体状況や認知機能の把握を促す取り組みや、生活支援コーディネーターの活動により社会参加の活動を支援。 審議会から：高齢者の社会参加の機会確保のために高齢者の移動手段について意見がある。→地域交通について町民向けに先進地視察の報告を兼ね「暮らしの足を考えるつどい」を実施。機能訓練教室での送迎実施のほか、事情に応じてタクシー運賃の助成を実施。 審議会、介護事業者から：介護人材の確保に非常に苦労していることについて意見がある。→介護人材の確保に向けて多面的な取り組み（学生の介護現場経験、介護福祉士へ奨学金返還助成など。）を展開。

5. 施策の課題認識（現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題）

「できる限り住み慣れた地域で暮らしたい」これは多くの町民の共通の願いであることから、「介護予防と生活支援、介護・医療・住まい」が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の推進を図るため、特に次の事業について取り組みを強化する。 ・安定的な介護保険サービス提供に不可欠な介護人材を確保する取り組み ・成年後見中核機関の充実 ・高齢者見守り支援事業の充実 ・認知症施策推進計画策定に向けた取り組み ・「まる元」運動教室をはじめとした切れ目のない介護予防事業の実施と更なる展開 ・健康状態不明者等、潜在する支援が必要な方への訪問による、社会参加促進及び孤立化防止 ・社会的支援を要する制度の狭間にある困難ケース増加への対応 ・自治体DX推進構想に基づく、デジタル技術の活用
--

6. 経営戦略会議（庁内評価）

評価	成果指標等から、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A：実現した B：（後期実施計画策定時と比較して）大きく前進した C：（後期実施計画策定時と比較して）前進した D：（後期実施計画策定時と比較して）変わらない又は維持した E：（後期実施計画策定時と比較して）後退した					

7. 総合計画審議会（外部評価）

評価	庁内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	・潜在的にいる支援の必要な方の支援が大事だと感じる。 ・委員をやって福祉の充実を実感したため、老後のPRで住民も増加するのでは。 ・地域交通が衰退していく中で、タクシー運賃助成は良いが、高齢者だけで良いのか。 ・介護サービスを維持できるよう今後も維持充実を。 ・サービス体制の維持もお願いしたい。 ・人口が減ると介護人材も減るため、介護職員に芽室町を選んでもらえる取り組みを。	A：実現した B：（後期実施計画策定時と比較して）大きく前進した C：（後期実施計画策定時と比較して）前進した D：（後期実施計画策定時と比較して）変わらない又は維持した E：（後期実施計画策定時と比較して）後退した					